

茨木火起こしプロジェクト

—茨木北部地域の活性化—



茨 木
ほくちの会

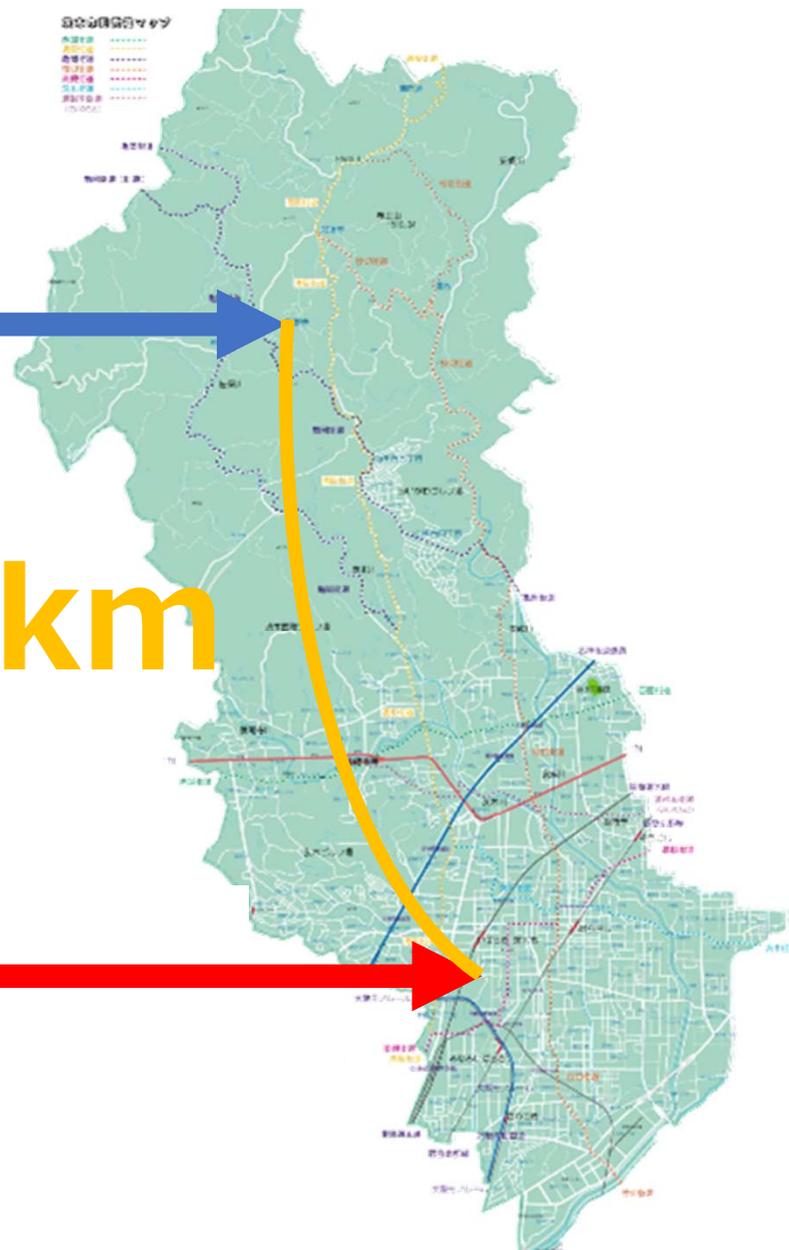
活動場所

千提寺



約10km

OIC



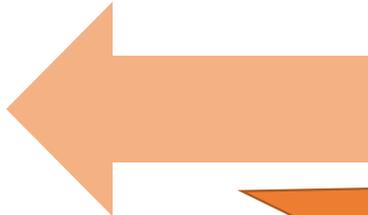
活動地について

若い人が
少ない

耕作放棄地の
増加



ほくちを存続させたい



休耕地を有効活用したい！！
ほくちを支える仲間が欲しい！！

受け入れ先：茨木ほくちの会 (茨木市北部地域協議会)

- 茨木市北部の16集落の活性化を目指す住民による組織
- 茨木市 28万人
 - 北部：2800人
 - 高齢化率39.2%
 - 小中学校の閉校・統合
 - 95%が兼業農家

地域を支える人を増やそう(特に若い人)

1. 移住する人
(住んでいる人しかルールが決められない。今いる住んでいる人は高齢者、若い人がいい)
2. 働く人
(地域の課題に取り組む人：農業する人、地域のものを使って加工品を作り人、カフェをオープンした人)
3. 通う人
(里山管理など)

プロジェクトマネージャー 中井優紀さん



隠れキリシタンの村に嫁いだら

三島独活（みしまうど）×茨木市北部地域×田舎暮らし



2017年度の様子

プログラム目標

「南部の小学生やその保護者がほくちの魅力を知っている」



身近の人に魅力を伝える力がある



- ほくほくアドベンチャー
- 大学生のネットワーク作り
- 拠点の整備





第1回 ほくほくアドベンチャー

目的

ほくちを知ってもらいきっかけにする!!
子供に魅力があるところを探してもらう!!

ターゲット

身近な知り合い

内容

竹刈り

BBQ

竹ごはん



第2回ほくほくアドベンチャー

目的

整備などに積極的に参加してもらうことで北地の魅力を感じてもらう

内容

出汁講座

溝堀り

スイーツづくり

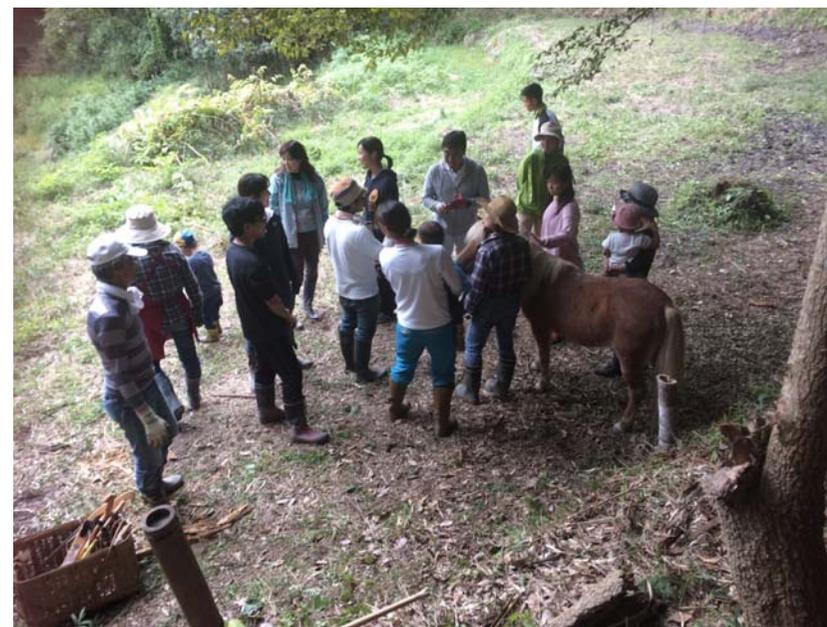
ヤギ・馬ふれあい体験

結果

「お客さん扱いしすぎないこと」の重要性を感じた

次回課題

達成感を短期間で得てもらう



第3回 ほくほくアドベンチャー

目的 充実感を得られる活動を行うことで仲間を増やす

目標 ほくちの**魅力**を大学生が知っている

ターゲット 大学生

内容 ティピー作り
カレー作り
竹ご飯
スイーツ作り
焼き芋

- ほくちの人々
- 環境
- 食べ物
- 草刈り竹刈り



活動を通して

- イベントを通してほくちの魅力を伝えることで、活動に興味を持ってくれる人が増えた。
- 今後ほくちの方々が長い年月をかけて休耕地の活動を続けていく上での方向性が見えてきた。
- 学生ならではの発想力や体力などの面で、活動・運営に貢献できた。

プロジェクト名:

茨木火起こしプロジェクト—茨木北部地域の活性化—

受入団体名: 茨木ほくちの会 (茨木市北部地域協議会)

募集人数

10名

<受入団体からのメッセージ>

茨木北部地域は高齢化や休耕地、里山の荒廃等、様々な課題を抱えています。その課題を少しでも解決していこうと、今、地域では未来に向けた活性化の火種がたくさん起こっています。私たちは、その火種を集め、火を大きくする火口(ほくち)になりたいと活動してきました。火を起こすには、火種をつくり、火種を集めたほくちに、風を送り込むことが重要です。私たちは地域の外の視点で、新しい風を吹き込んでくれる仲間を探しています。茨木の農村地域が抱える様々な課題を「遊び」と「ビジネス」で解決していきたいと考えています。与えられる遊びや仕事ではなく、自分たちで考え、創り上げていく面白さを学生の皆さんやまちの人たちと共有していきたいのです。決して簡単に解決できるものではありませんが、多様な価値観や背景の人たちが集まり、知恵を出し合えば、何だってできるんじゃないかと思っています。

<主な活動場所>

茨木市北部 千提寺(最寄バス停など: 阪急バス「千提寺口」)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール (○)Facebook (○)LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

若い柔軟な発想と、行動力に期待しています。
ダッシュ村のように休耕地と荒れた里山も蘇らせていきます
ので、体力も重要です!

<活動パターン>

- () 毎週1日程度・定例
 - (○) 月1~2回・不定期
 - () 主に夏期休暇・集中
 - () その他
- 具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

子どもたちと茨木ほくちの魅力を発見する

<学生たちが共に取り組む活動について、経緯や経過、また共に活動させていただく方々など、現場での動きが想像できるよう、お示しください。必要に応じて、写真なども効果的にお使いください。>

茨木市北部(ほくち)には、16の集落の人々によって守られきた豊かな里山と、棚田、地域の特産野菜があり、新規就農者や、市内外から森の手入れに通う方々の集う場所です。ほくちの会では、このほくちの豊かさを守っていくために、子どもたちに農と里山の面白さを伝えるプログラムを実施しています。

このプロジェクトでは、耕作放棄地や里山の有効活用や、子ども農業ビジネススクールを、地域の大人や子どもと一緒に作ってきます。大学生のみなさんには、子どもたちに寄り添い、彼らが茨木ほくちの魅力を発見するお手伝いをさせていただきたいと考えています。具体的には、子どもたちがほくちの自然や文化と出会う場や、ほくちの農や里山を南部住民に伝える企画を、ともに作ってください。茨木市の未来を担う子どもたちを、ほくちの会と一緒に育ててきましょう！それが、未来のほくちを開拓することにつながります。

<期待できる学び>

～ができるようになる、といった表現でおまとめください。

茨木市北部の状況を理解できるようになる。

日本における中山間地の農業、農村が抱える課題を理解できるようになる。

中山間地と市街地が近距離に位置する茨木市の特徴を実感できるようになる。

ほくち住民(農業者)と茨木市南部住民(市街地住民)双方の背景を理解できるようになる。

社会問題の解決に向けて、試行錯誤を繰り返しながら考え続ける体力を身につけることができる。

<活動の流れ>

- 5月 茨木北部の散歩(ほくちの魅力を感じる)
6月 ほくちの会・風の会(ほくちを応援する非住民の集まり)とやりたいことワークショップ
-7月 風の杜(棚田を活用した活動拠点)の環境整備
- 8月-11月 風の杜、もしくは茨木南部(キャンパスを含む)でのイベント実施
3回ほどを予定
昨年の例)ほくち産の農畜産物、ジビエを使ったBBQ、野外料理
ロバやヤギとのふれあい体験などをはじめとした子どもの自然体験
風の杜での自然体験施設の制作

12月上旬 報告会



希望者は、
12月 独活小屋づくり
3月 独活収穫見学

